

7. がんの医療などの対策について（問35～38、報告書P128～141）

【結果概要】

① 担当課

健康医療福祉部 健康医療課 がん・疾病対策室

② 調査目的

「滋賀県がん対策の推進に関する条例」および「滋賀県がん対策推進計画」の進捗状況を評価し、今後の対策を検討するにあたり、がん対策に関する県民の認知度やがん対策へのニーズを把握する。

③ 調査結果の分析・考察

- 「セカンド・オピニオン」「インフォームド・コンセント」「緩和ケア」の認知度（問 35、p. 128）では、「聞いたことがあり、意味も知っている」人の割合が、「セカンド・オピニオン」では 65.9%、「インフォームド・コンセント」では 50.5%、「緩和ケア」では 58.2%で、半数強にとどまる。
- がん患者への緩和ケアの時期（問 36、p. 132）では、「がんと診断されたときから」が 55.5%で最も多く、次いで「がんの治療が始まったときから」が 18.6%となった。診断・治療開始当初の不安感をはじめ、精神的・社会的苦痛へのケアが求められていることがうかがえる。
- がん治療や検査のための通院と働くことの両立（問 37、p. 134）では、両立が可能だと『思う』が 43.6%、『思わない』が 42.4%で、ほぼ等しくなっている。
- がん患者が働き続けるのを困難にしている理由（問 37 付問 1、p. 136）では、「がんの治療・検査と仕事の両立が体力的に困難だから」が 52.7%で最も多く、次いで「がんの治療・検査と仕事の両立が精神的に困難だから」が 45.8%となっており、体力的・精神的な理由を挙げる人が多い傾向にある。
次いで、多い順に「代わりに仕事をする人がいない、またはいても頼みにくいから」（36.7%）、「休むと収入が減ってしまうから」（35.9%）、「職場が休むことを許してくれるかどうかわからないから」（31.4%）となった。
- 県として力を入れるべきがん対策（問 38、p. 139）では、「がんにかかったときの早期発見（がん検診）の推進」が 55.3%で最も多く、次いで「がん医療に関わる医療機関の整備」が 41.9%となっており、検診や医療に関する項目が上位を占める。その一方で、3番目に「がんのため就労が困難になった際の相談・支援体制の整備」（32.4%）が続き、がんになった後の経済的自立や職業生活の継続のニーズが高いこと、現実それが困難な現状がうかがわれる。（問 37 付問 1 の回答のとおり）

④ 今後の施策への反映

2人に1人ががんになる時代。自分自身や家族、身近な人ががんになった時に備え、県民全体のがんの療養に関する予備知識が広がるよう対策を強化する。とりわけ、県民が、①よい治療法を選択する、②納得できる説明を受ける、③がんに伴う苦痛を軽減する、これら3点が実現するよう「セカンド・オピニオン」「インフォームド・コンセント」「緩和ケア」について、理解を図る。また、これらの提供体制を充実させる。

がん患者のうち、3人に1人は就労可能な年齢で発病し、かつ、治療により治る人が増え、かつての「不治の病」から「長くつき合う慢性病」に変わりつつあるため、がんの体験者が職場復帰しようとするのは身近なことになっている。そこで、働く力と意欲のある人が働き続けられるよう、自分自身の病状に照らして復帰のタイミングを判断できるように支援することにあわせて、職場の理解等、通院と仕事を両立できる環境整備、相談・支援体制の充実が必要である。

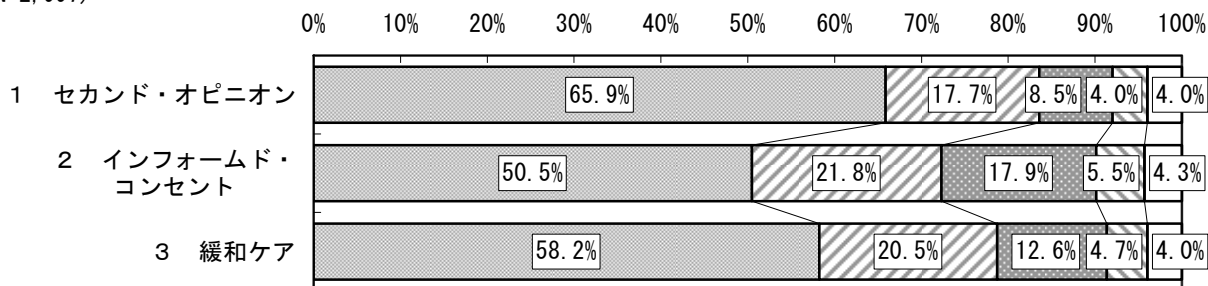
あわせて、がんにかかったときの早期発見（がん検診）の推進、がん医療に関わる医療機関の整備に引き続き取り組む。

【結果表・グラフ】

(1) 「セカンド・オピニオン」「インフォームド・コンセント」「緩和ケア」の認知度

問 35 あなたは、がんの治療にあたって「セカンド・オピニオン」や「インフォームド・コンセント」、「緩和ケア」という方法があることを知っていますか。1～3のそれぞれの項目について、右の欄の1～4の中から当てはまるものを選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

(N=2,997)

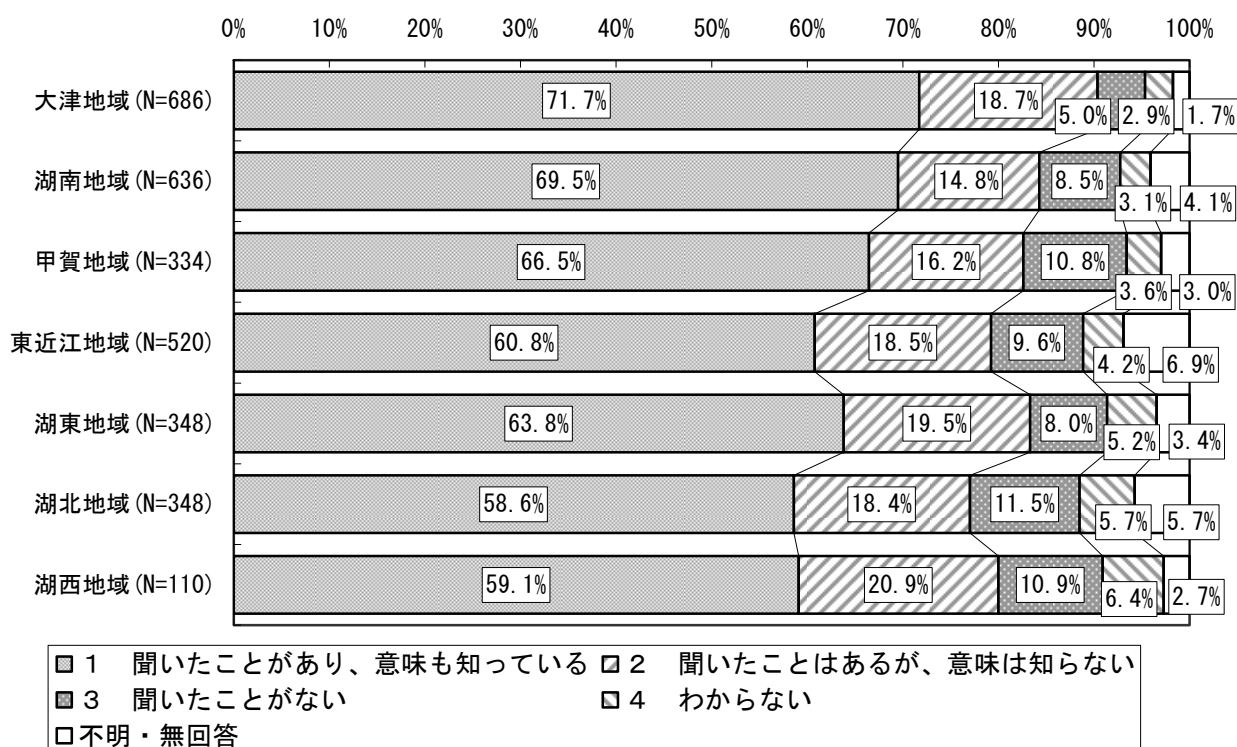


- 1 聞いたことがあり、意味も知っている
- 2 聞いたことはあるが、意味は知らない
- 3 聞いたことがない
- 4 わからない
- 不明・無回答

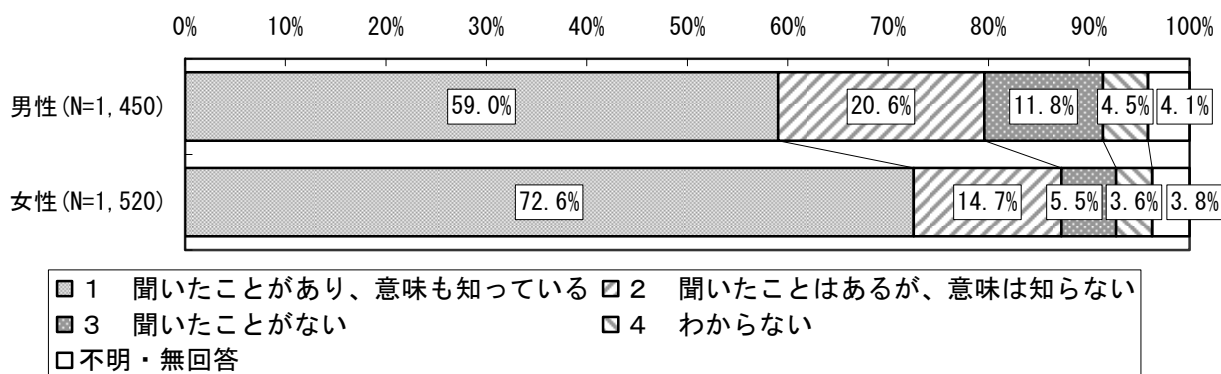
①セカンド・オピニオン

(治療法の決定をする際などに、主治医以外の医師の意見を聞くこと)

【地域別】



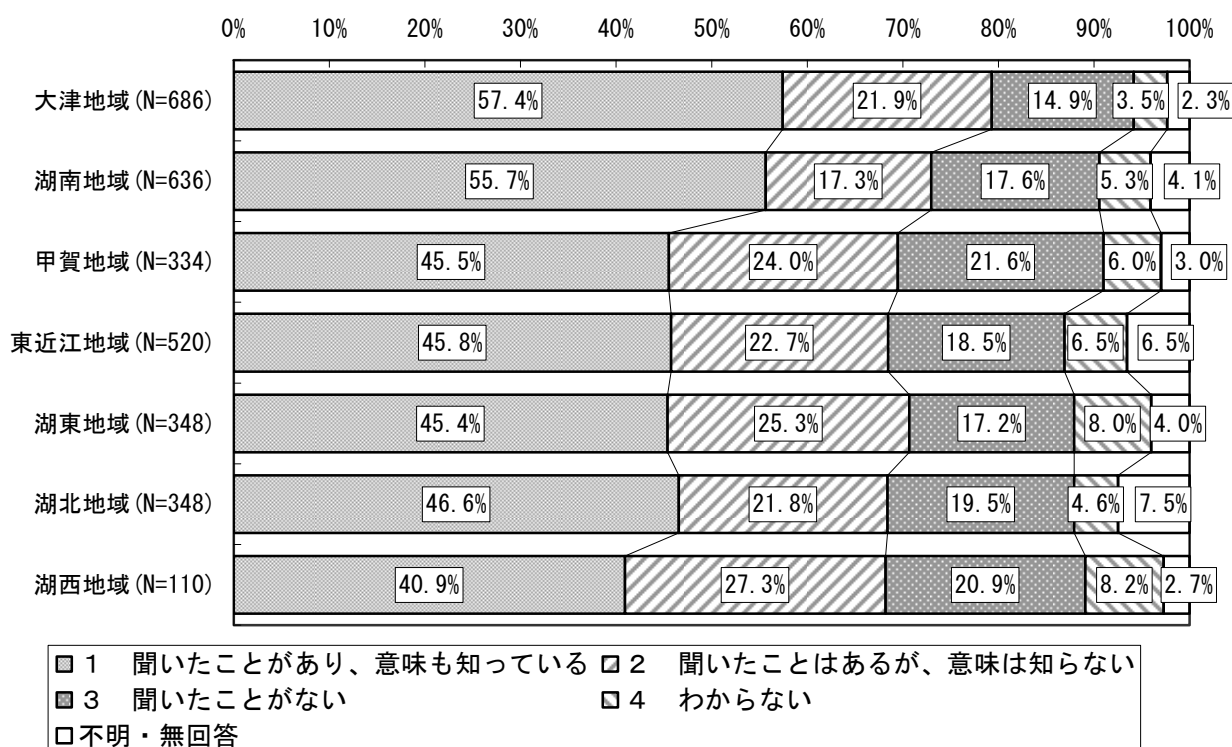
【性別】



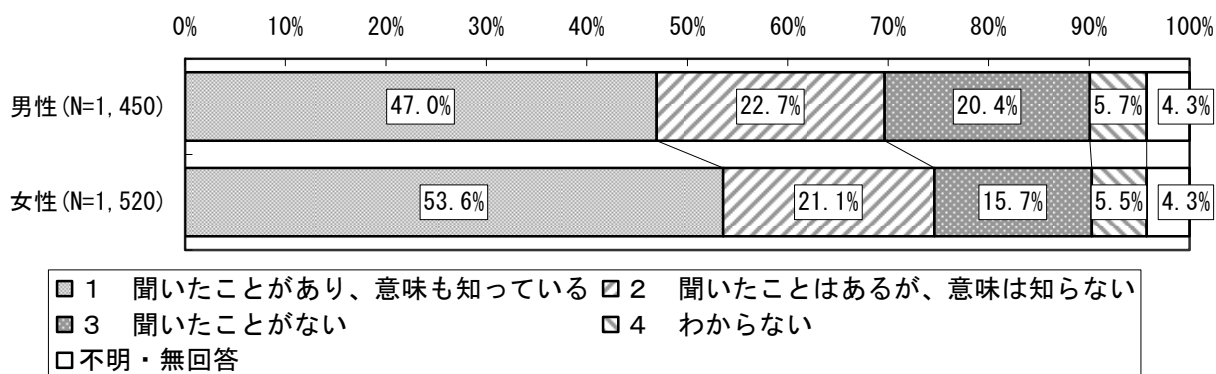
②インフォームド・コンセント

(治療の目的や内容を納得できるように患者に説明し、了承を得て治療をすること)

【地域別】



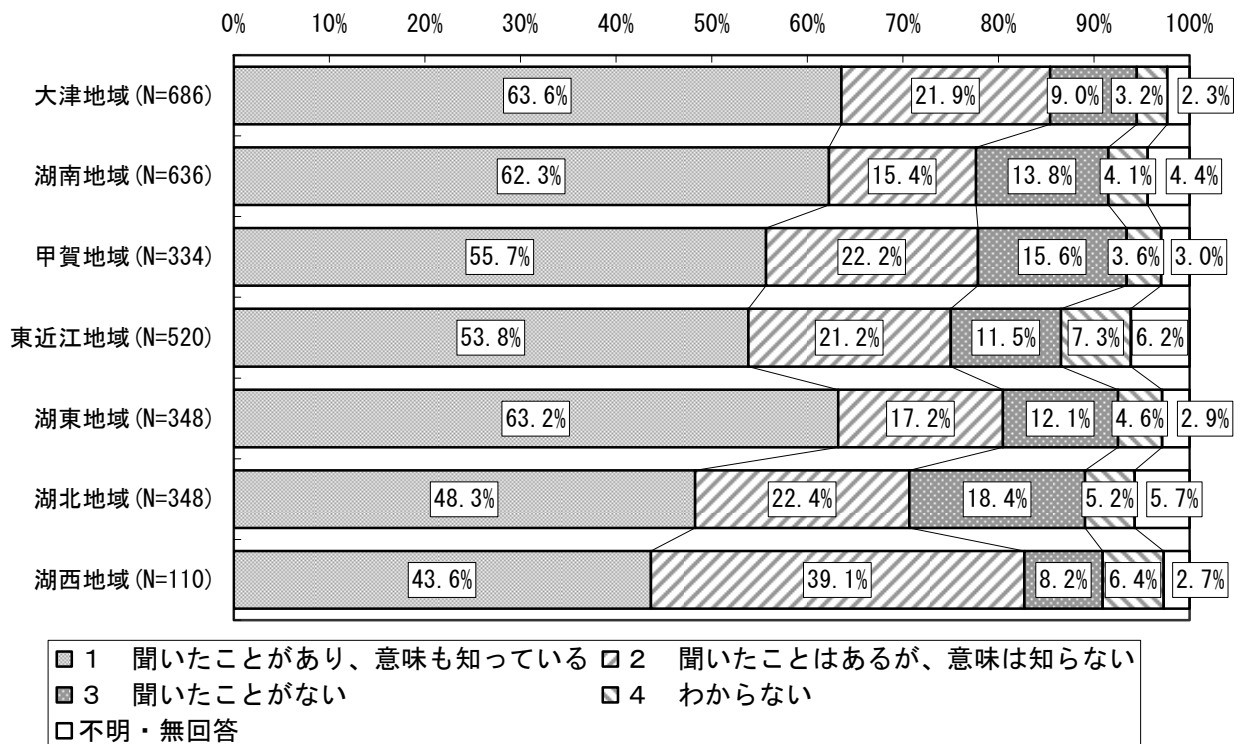
【性別】



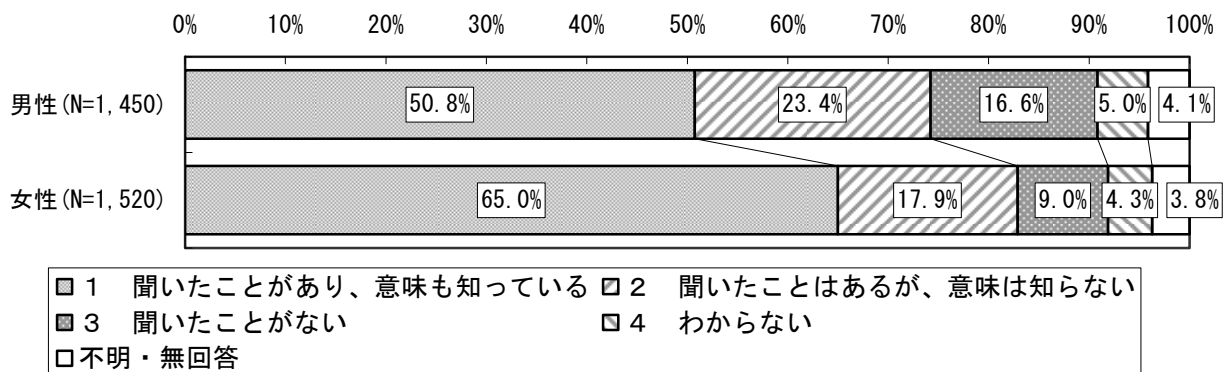
③緩和ケア

(がんに伴う体と心の痛みを和らげること)

【地域別】



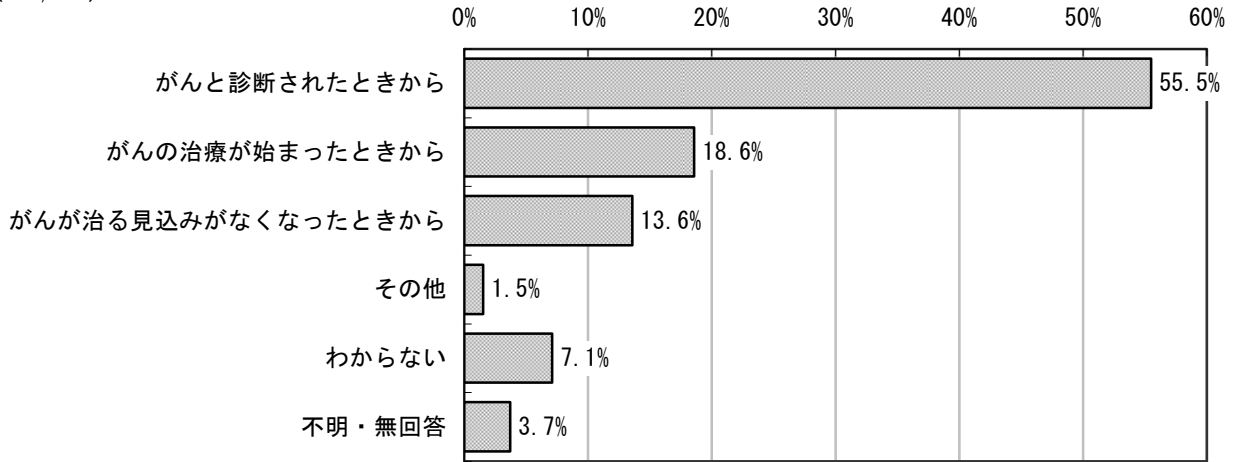
【性別】



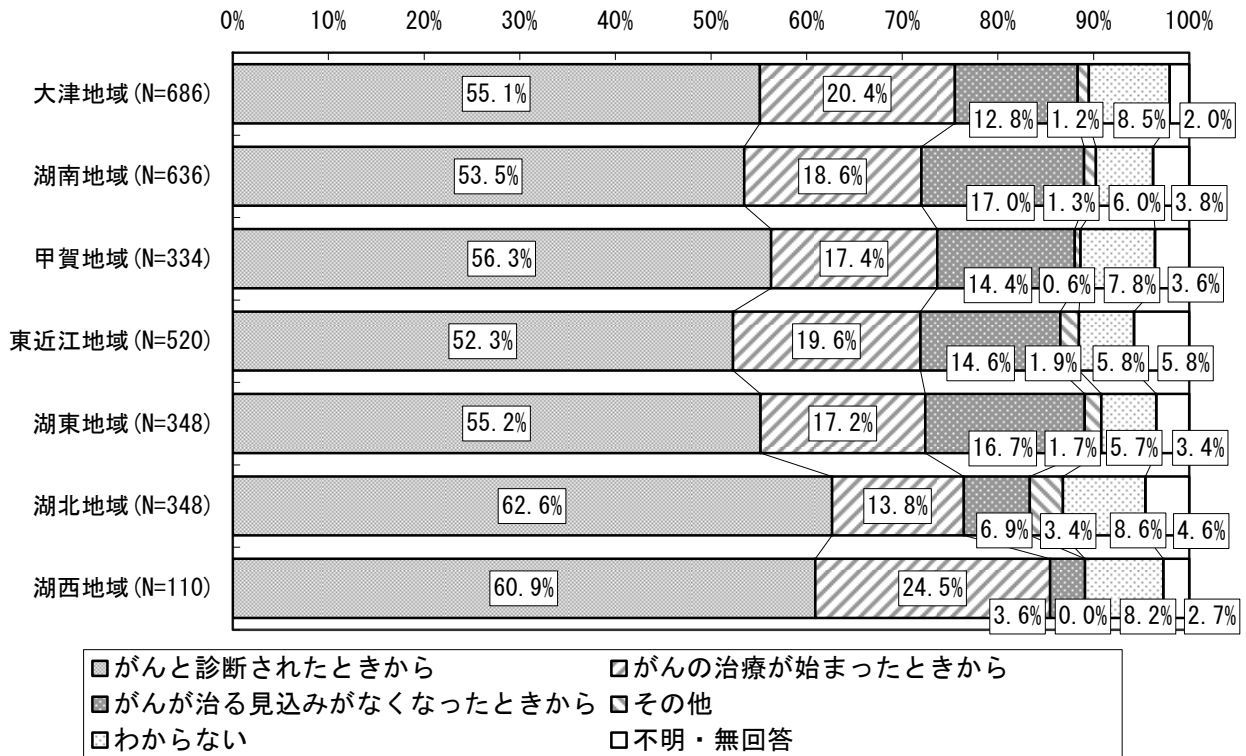
(2) がん患者への緩和ケアの時期

問 36 あなたは、がん患者への緩和ケアはいつから実施されるべきものと思いますか。(〇は1つだけ)

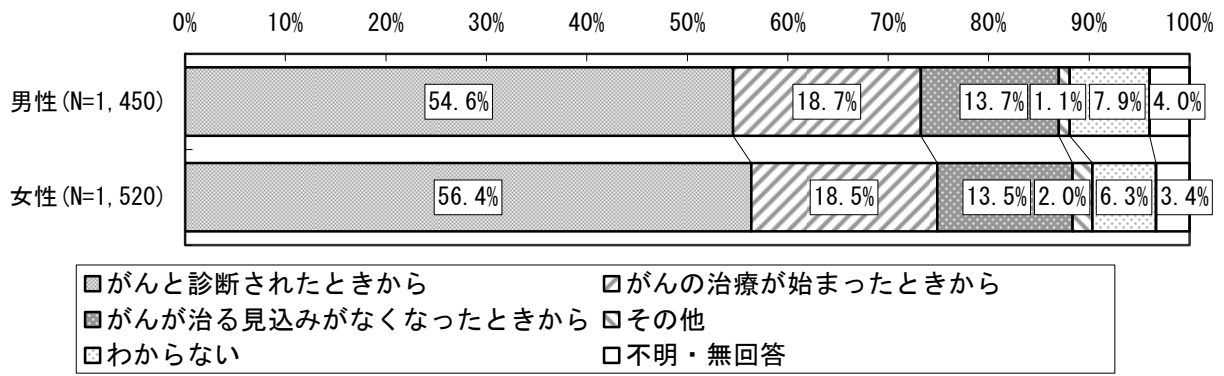
(N=2,997)



【地域別】



【性別】

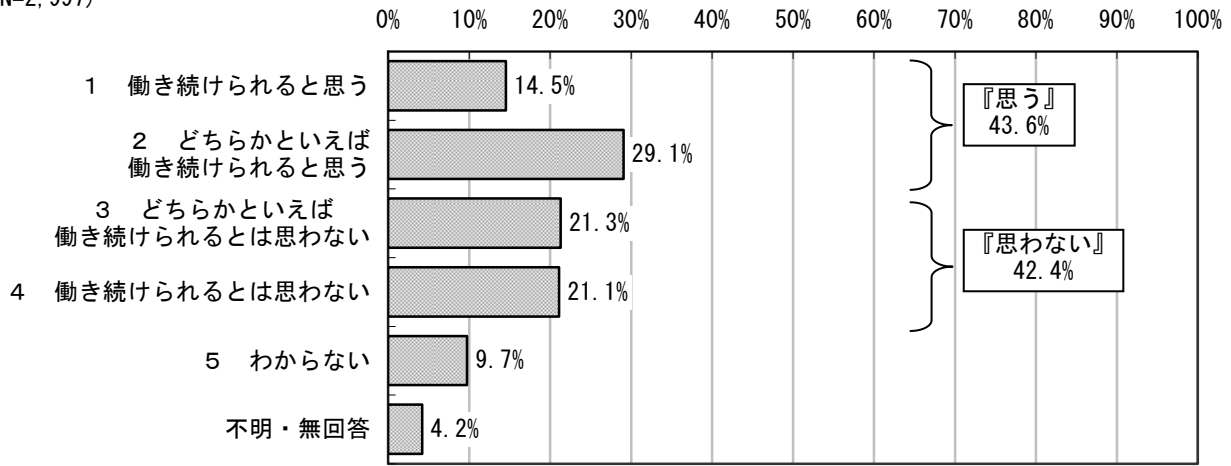


(3) がん治療や検査のための通院と働くことの両立

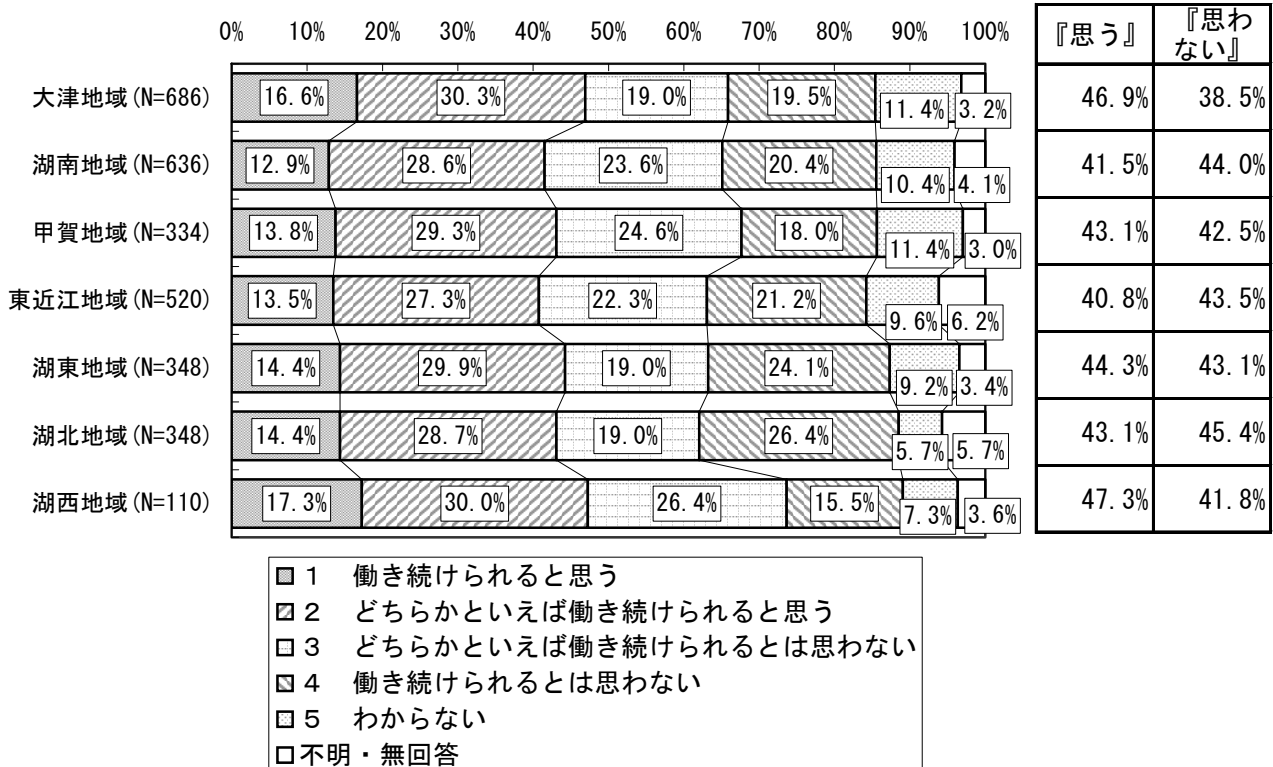
問 37 あなた（働いていなければ、ご家族や身近な人）は、がんの治療や検査のために2週間に1回程度病院に通う必要がある場合、働きつづけられる環境だと思いますか。（○は1つだけ）

※『思う』:「働き続けられると思う」と「どちらかといえば働き続けられると思う」の合計
 ※『思わない』:「どちらかといえば働き続けられるとは思わない」と「働き続けられるとは思わない」の合計

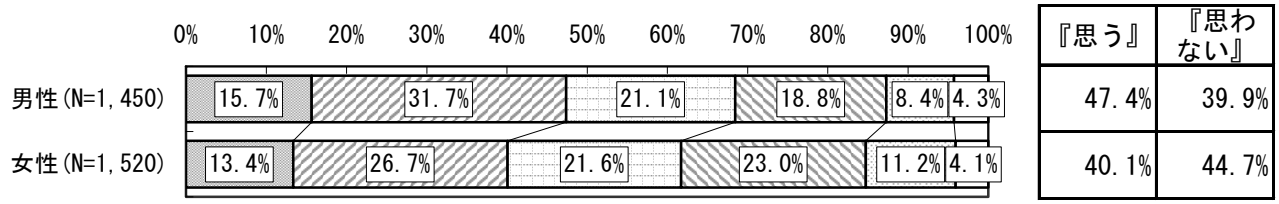
(N=2,997)



【地域別】



【性別】



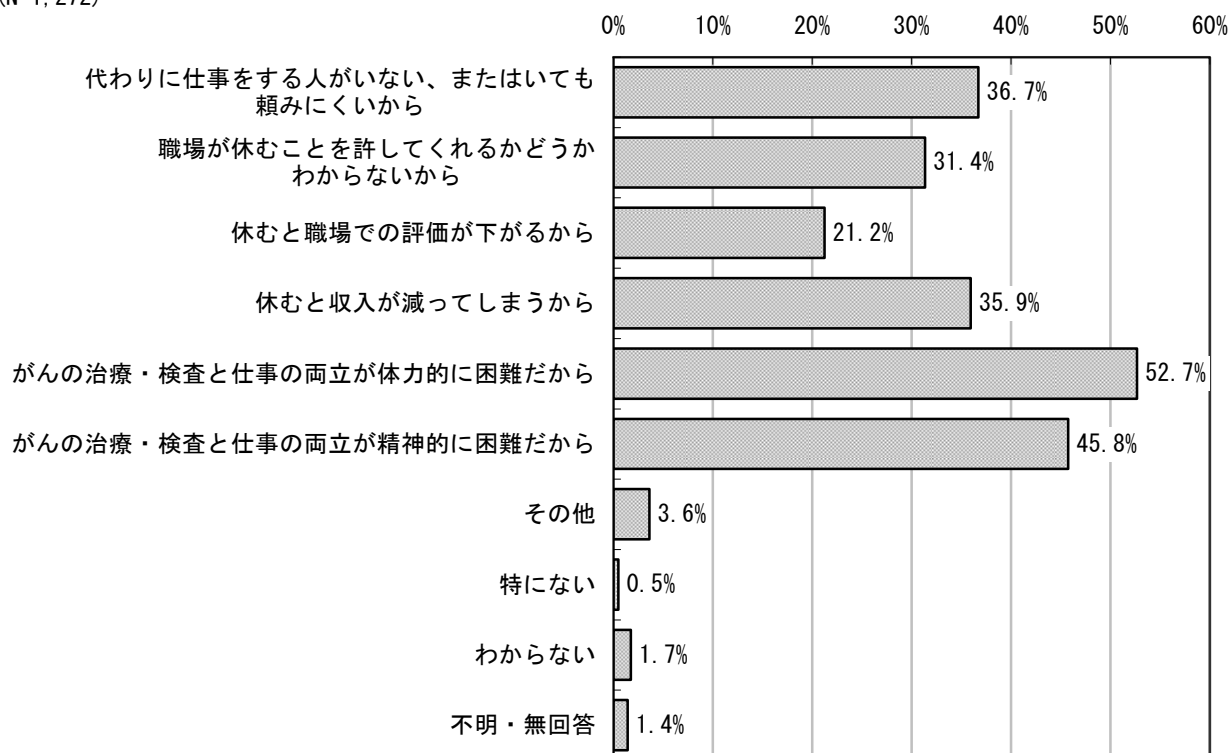
- 1 働き続けられると思う
- 2 どちらかといえば働き続けられると思う
- 3 どちらかといえば働き続けられるとは思わない
- 4 働き続けられるとは思わない
- 5 わからない
- 不明・無回答

(4) がん患者が働き続けるのを困難にしている理由

付問1 問37で「3 どちらかといえば働き続けられるとは思わない」「4 働き続けられるとは思わない」と回答された方におたずねします。
がんの治療や検査のために2週間に1回程度病院に通う必要がある場合、働き続けることを難しくさせている最も大きな理由は何だと思えますか。(〇はいくつでも)

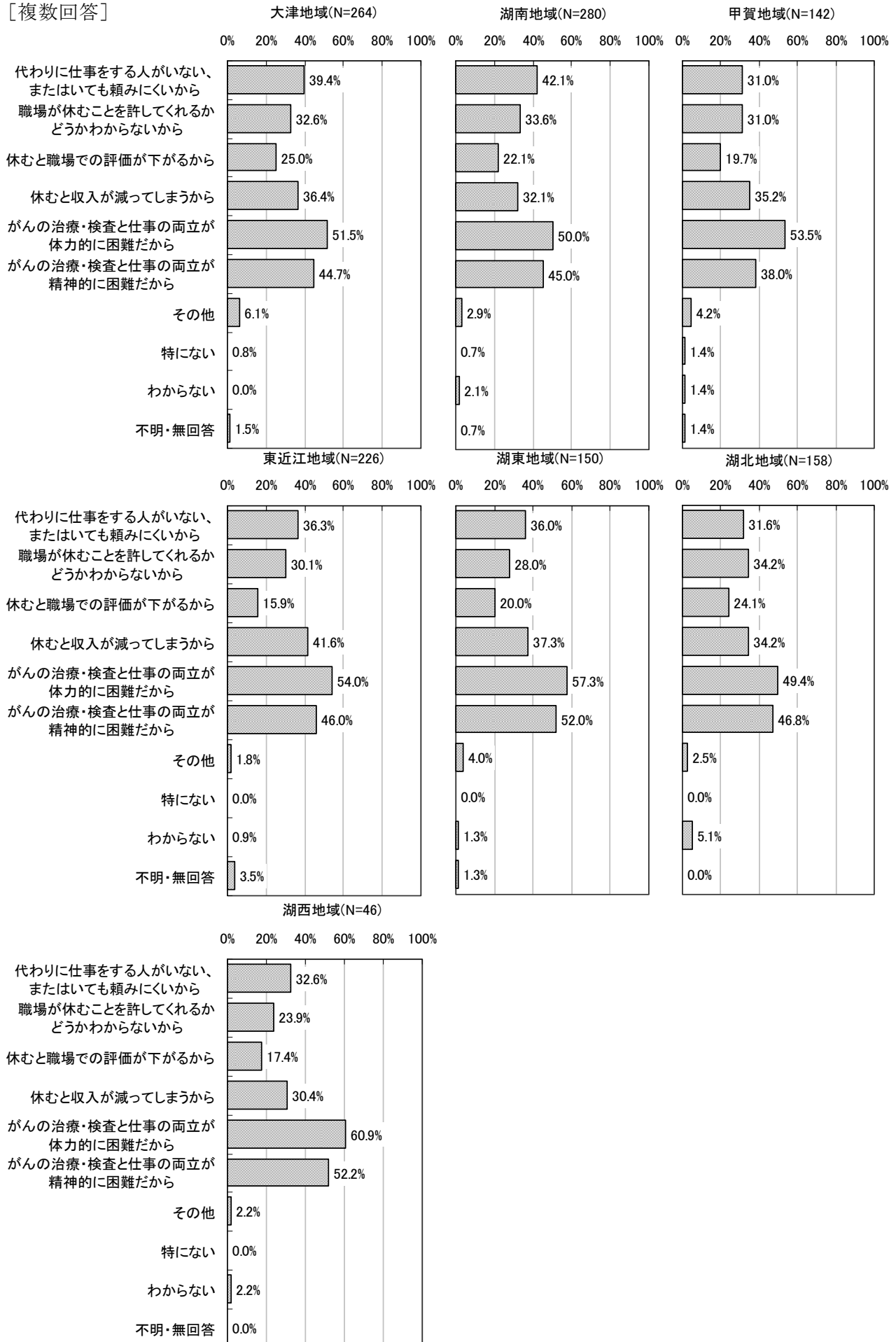
[複数回答]

(N=1,272)



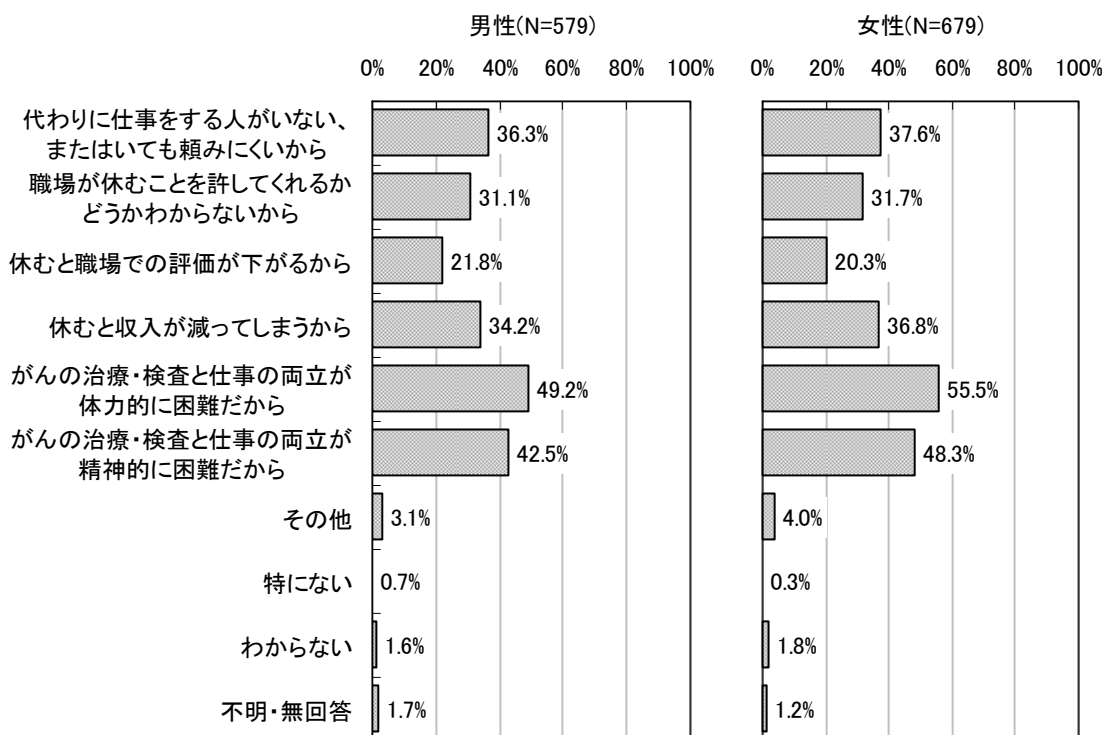
【地域別】

[複数回答]



【性別】

[複数回答]

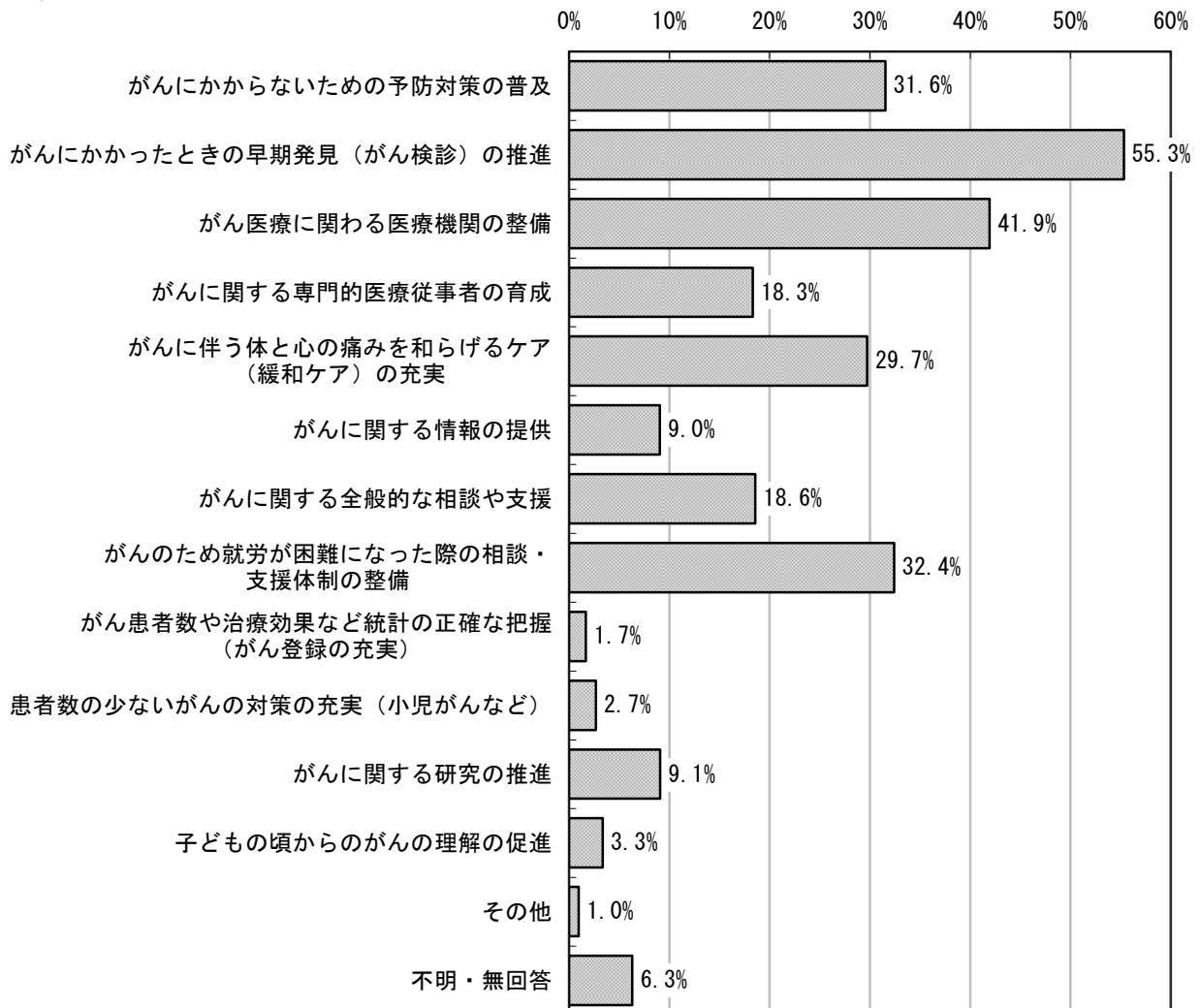


(5) 県として力を入れるべきがん対策

問 38 あなたは、がん対策について、県としてどういうことに力を入れる必要があると思いますか。(〇は3つまで)

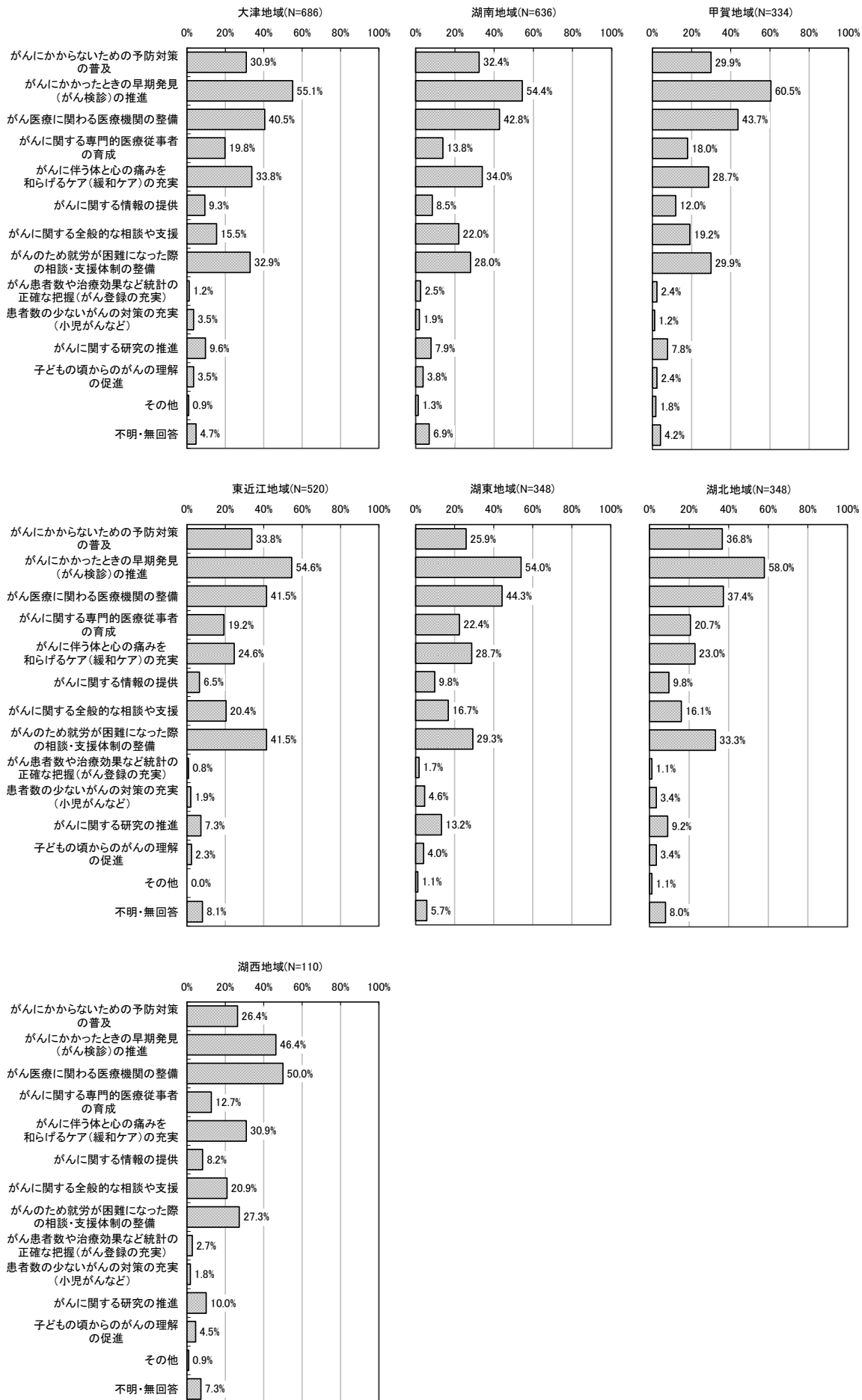
[3つ以内で複数回答]

(N=2,997)



【地域別】

[3 つ以内で複数回答]



【性別】

[3 つ以内で複数回答]

